

資料編

# 鎌倉市社会基盤施設白書

令和8年5月

鎌倉市

# 目次

第 1 章 「鎌倉市社会基盤施設白書」について.....	1
1.1 目的.....	1
1.2 本市の特徴 .....	2
1.2.1 本市の地域特性・都市構造 .....	2
1.2.2 本市の歴史 .....	5
1.2.3 本市の人口の推移 .....	5
1.3 本市の財政状況 .....	7
第 2 章 インフラの整備状況 .....	12
2.1 管理数量について .....	12
2.2 施設の情報・データの管理状況について.....	14
2.3 行政地域区分 .....	22
2.4 道路(舗装) .....	23
2.4.1 管理数量.....	23
2.4.2 維持管理状況.....	27
2.4.3 劣化状況.....	28
2.4.4 施設の情報・データの管理状況 .....	39
2.5 橋りょう及び橋りょう構造物.....	40
2.5.1 管理数量.....	40
2.5.2 整備状況.....	48
2.5.3 維持管理状況.....	53
2.5.4 劣化状況.....	53
2.5.5 地域別集計 .....	56
2.5.6 施設の情報・データの管理状況 .....	63
2.6 トンネル及び地下道.....	64
2.6.1 管理数量.....	64
2.6.2 整備状況.....	66
2.6.3 維持管理状況.....	67
2.6.4 劣化状況.....	68
2.6.5 地域別集計 .....	70
2.6.6 施設の情報・データの管理状況 .....	72

2.7	道路附属施設（盛土・ブロック擁壁） .....	73
2.7.1	管理数量.....	73
2.7.2	維持管理状況.....	79
2.7.3	施設の情報・データの管理状況 .....	79
2.8	道路附属施設（街路樹） .....	80
2.8.1	管理数量.....	80
2.8.2	維持管理状況.....	81
2.8.3	地域別集計 .....	81
2.8.4	施設の情報・データの管理状況 .....	83
2.9	道路附属施設（街路照明灯） .....	84
2.9.1	管理数量.....	84
2.9.3	維持管理状況.....	87
2.9.4	地域別集計 .....	88
2.9.5	施設の情報・データの管理状況 .....	91
2.10	道路附属施設（カーブミラー） .....	92
2.10.1	管理数量.....	92
2.10.2	維持管理状況.....	94
2.10.3	地域別集計 .....	94
2.10.4	施設の情報・データの管理状況 .....	95
2.11	道路附属施設（道路標識） .....	96
2.11.1	管理数量.....	96
2.11.2	整備状況.....	97
2.11.3	維持管理状況.....	99
2.11.4	劣化状況.....	99
2.11.5	地域別集計 .....	101
2.11.6	施設の情報・データの管理状況 .....	102
2.12	道路附属施設（防護柵（ガードレール）） .....	103
2.12.1	管理数量.....	103
2.12.2	維持管理状況.....	104
2.12.3	施設の情報・データの管理状況 .....	104
2.13	河川.....	105
2.13.1	管理数量.....	105
2.13.2	維持管理状況.....	108
2.13.3	劣化状況.....	109
2.13.4	地域別集計 .....	111
2.13.5	施設の情報・データの管理状況 .....	112
2.14	雨水調整池 .....	113

2.14.1	管理数量.....	113
2.14.2	整備状況.....	117
2.14.3	維持管理状況.....	117
2.14.4	劣化状況.....	118
2.14.5	地域別集計.....	123
2.14.6	施設の情報・データの管理状況.....	124
<b>2.15</b>	<b>公園.....</b>	<b>125</b>
2.15.1	管理数量.....	125
2.15.2	整備状況.....	137
2.15.3	維持管理状況.....	139
2.15.4	劣化状況.....	139
2.15.5	地域別集計.....	142
2.15.6	施設の情報・データの管理状況.....	143
<b>2.16</b>	<b>緑地.....</b>	<b>144</b>
2.16.1	管理数量.....	144
2.16.2	整備状況.....	148
2.16.3	維持管理状況.....	149
2.16.4	劣化状況.....	149
2.16.5	地域別集計.....	152
2.16.6	施設の情報・データの管理状況.....	153
<b>2.17</b>	<b>産業振興施設(漁港).....</b>	<b>154</b>
2.17.1	管理数量.....	154
2.17.2	整備状況.....	156
2.17.3	維持管理状況.....	156
2.17.4	劣化状況.....	157
2.17.5	施設の情報・データの管理状況.....	159
<b>2.18</b>	<b>生活環境施設.....</b>	<b>160</b>
2.18.1	管理数量.....	160
2.18.2	整備状況.....	163
2.18.3	維持管理状況.....	167
2.18.4	地域別集計.....	168
2.18.5	施設の情報・データの管理状況.....	169
<b>2.19</b>	<b>下水道.....</b>	<b>170</b>
2.19.1	管理数量.....	170
2.19.2	整備状況.....	173
2.19.3	維持管理状況.....	175
2.19.4	地域別集計.....	175
2.19.5	施設の情報・データの管理状況.....	176

<b>第 3 章 インフラ管理の財務状況</b> .....	<b>178</b>
3.1 インフラ管理経費の歳出実績.....	178
3.2 インフラ管理経費の歳出実績(一般会計).....	179
3.2.1 一般会計の歳出実績.....	179
3.2.2 維持管理経費の歳出(一般会計).....	181
3.2.3 補修更新経費の歳出(一般会計).....	182
3.2.4 事業別の歳出実績(一般会計).....	183
3.3 インフラ管理経費の歳出(下水道事業会計).....	263
3.3.1 下水道事業会計の歳出実績.....	263
3.3.2 維持管理経費の歳出実績(下水道事業会計).....	265
3.3.3 補修更新経費の歳出実績(下水道事業会計).....	267
<b>第 4 章 将来経費の試算</b> .....	<b>269</b>
4.1 一般会計での効果(試算).....	270
4.2 下水道事業会計の効果(試算).....	275
4.3 今後のインフラ管理に関わる財源の確保(一般会計).....	279
4.3.1 本市が準備する経費.....	280
4.3.2 不足する財源の確保に向けた取組み(一般会計).....	281
4.4 今後のインフラ管理に関わる財源の確保(下水道事業会計).....	282
4.4.1 本市が準備する経費(下水道事業会計).....	282
4.4.2 下水道使用料収入の将来予測(下水道事業会計).....	283
4.4.3 下水道事業会計が負担する経費の予測.....	284
4.4.4 不足する財源を確保する取組み(下水道事業会計).....	285
<b>第 5 章 巻末資料</b> .....	<b>286</b>
5.1 外部委員会・内部委員会の体制.....	286
5.1.1 外部委員会.....	287
5.1.2 内部委員会.....	288
5.1.3 改訂の経緯.....	289
5.2 参考事例 ～他の地方公共団体の事例等～.....	291
5.3 用語集.....	309



# 第 1 章 「鎌倉市社会基盤施設白書」について

---

## 1.1 目的

---

本市のインフラ管理における課題の解決を目的とした本計画を推進していくために、本計画資料編ではインフラ管理に係る現状や課題、管理経費、将来経費などを基礎資料として整理します。

## 1.2 本市の特徴

### 1.2.1 本市の地域特性・都市構造

本市は神奈川県南東部の三浦半島の基部に位置し、自然豊かな丘陵と相模湾を望む美しい海岸線のある、歴史的遺産と文化的遺産に恵まれた日本を代表する古都です。また、気候は、気温較差も比較的少なく温暖で良好な気候です。

そのような温暖な土地であることから、鎌倉は、大船地域から旧石器が発見され、縄文時代や弥生時代の遺跡も確認されています。鎌倉が政治、文化の中心地として栄えたのは、源頼朝公が鎌倉幕府を開いてからです。室町時代以降、明治時代に至るまで衰退の道をたどりましたが、明治維新以降、良好な海水浴場として鎌倉の海が紹介されたことや横須賀線や江ノ電の開通により、鎌倉は発展してきました。これ以降鎌倉は、別荘地、観光地として多くの文化人が住み、観光客が訪れるようになりました。

昭和30～40年代（1955～1974年頃）には、東京、横浜への通勤圏内の住宅地として、緑により分節化された市街地が形成され、丘陵の緑～谷戸～市街地という構造が本市独自の景観を生み出し、さらに本市の南側には海が存在することから、緑と海に囲まれた「鎌倉らしさ」というイメージを生み出しています。

また、一年を通じて歴史的遺産や鎌倉海岸へ観光に訪れる観光客が多く、令和6年（2024年）度には約1,594万人<sup>1</sup>でした。

しかしながら、都市構造の面からみると、古くから整備された社会基盤を基本としているため、近年の観光客の増加に対応できず道路の渋滞や鉄道利用者増加による混雑、ごみ処理量などの問題が顕在化しています。

これらの課題に対して、市内の地域特性に合わせて、市内5つの拠点（3つの都市拠点と2つの地域活性化拠点）を中心に安全で活力ある都市空間の形成整備を検討し取り組みを行っています。

3つの都市拠点には、鎌倉地域の中心及び生活拠点として、歴史的遺産、商業・観光、公共公益・文化などの資源が集積されている『鎌倉駅周辺拠点』、鎌倉市と他の都市を結ぶ交通結節点としての『大船駅周辺拠点』、国鉄跡地の再開発が検討されている『深沢地域国鉄跡地周辺拠点』があり、2つの地域活性化拠点には、腰越漁港や商店街があり周辺地域の整備と併せて検討されている『腰越拠点』、玉縄城跡などの歴史的資源や地域資源を活用したまちづくりを推進している『玉縄拠点』があります。

これらの5つの拠点を中心に、行政地域区分として『鎌倉地域』、『腰越地域』、『深沢地域』、『大船地域』、『玉縄地域』に分けられています。

<sup>1</sup> 鎌倉市HP「延入込観光客数の推移」より整理

## 『鎌倉地域』

三方を緑豊かな丘陵で囲まれた市街地に鶴岡八幡宮を始めとする数多くの歴史的遺産が点在しており、古都鎌倉を最も印象づける地域です。鎌倉駅周辺と若宮大路沿いに事業所や商業施設が集積し、昔ながらの商店に加えて比較的新しい店舗が軒を連ねています。南側は海に面し、マリンレジャーなどの観光客で賑わいを見せています。また、東側の丘陵地は比較的小規模に開発された住宅地と谷戸の住宅地で構成されています。

## 『腰越地域』

腰越地域は、鎌倉市の西側に位置し、腰越、津、津西、西鎌倉、七里ガ浜東、七里ガ浜がその範囲です。海岸線に国道134号と江ノ電が通り、腰越漁港ではシラス漁や定置網漁が行われ、取れたての魚が並ぶ月2回の腰越漁港での朝市は、大勢の人で賑わいます。夏には、海水浴場も開設されます。

## 『深沢地域』

古都中心部を囲む鎌倉広町緑地から常盤山緑地へと連なる緑のネットワークと、市境を流れる柏尾川に囲まれ、西方を眺めれば雄大な富士山の景色を望むことができます。

また、鎌倉、大船に並ぶ、第3の都市拠点の形成を目指し、持続可能な都市経営を実現するための新たなエンジンとしてヘルスケアの産業集積地などの役割が期待されています。

## 『大船地域』

大船駅を中心に商業施設が集積しており、交通の結節点でもあり、買い物客で賑わいがあります。県立大船高校や鎌倉女子大学など学生の街の側面も併せ持っています。南側は鎌倉地域と接しており、古都鎌倉の風情があり、北鎌倉駅から大船駅に向かう鎌倉街道と呼ばれる県道21号（横浜鎌倉）沿いには、古くから商店が点在しています。

## 『玉縄地域』

昭和40年代（1965年頃）に開発された住宅地が点在し、緑と調和した住環境が形成されており、一方で玉縄城跡などの歴史的遺産も多く存在しています。南側の植木・岡本地区にある工業地域では企業の撤退後、マンションや戸建住宅、大規模商業施設の開発が行われました。また北西部には農地が広がり、田園風景が広がっています。

表 1-1 行政地域区分一覧表（令和7年（2025）年度4月1日時点）

地域	人口（人）	面積（km <sup>2</sup> ）	人口密度（人／km <sup>2</sup> ）
鎌倉地域	44,402	14.22	3,108
腰越地域	23,070	4.21	5,480
深沢地域	33,721	8.22	4,102
大船地域	44,492	8.40	5,297
玉縄地域	24,349	4.48	5,435
合計	170,034	39.67	4,286

（出典：鎌倉の人口と世帯数（地域・町丁・字別） 令和7年（2025年）4月より編集）

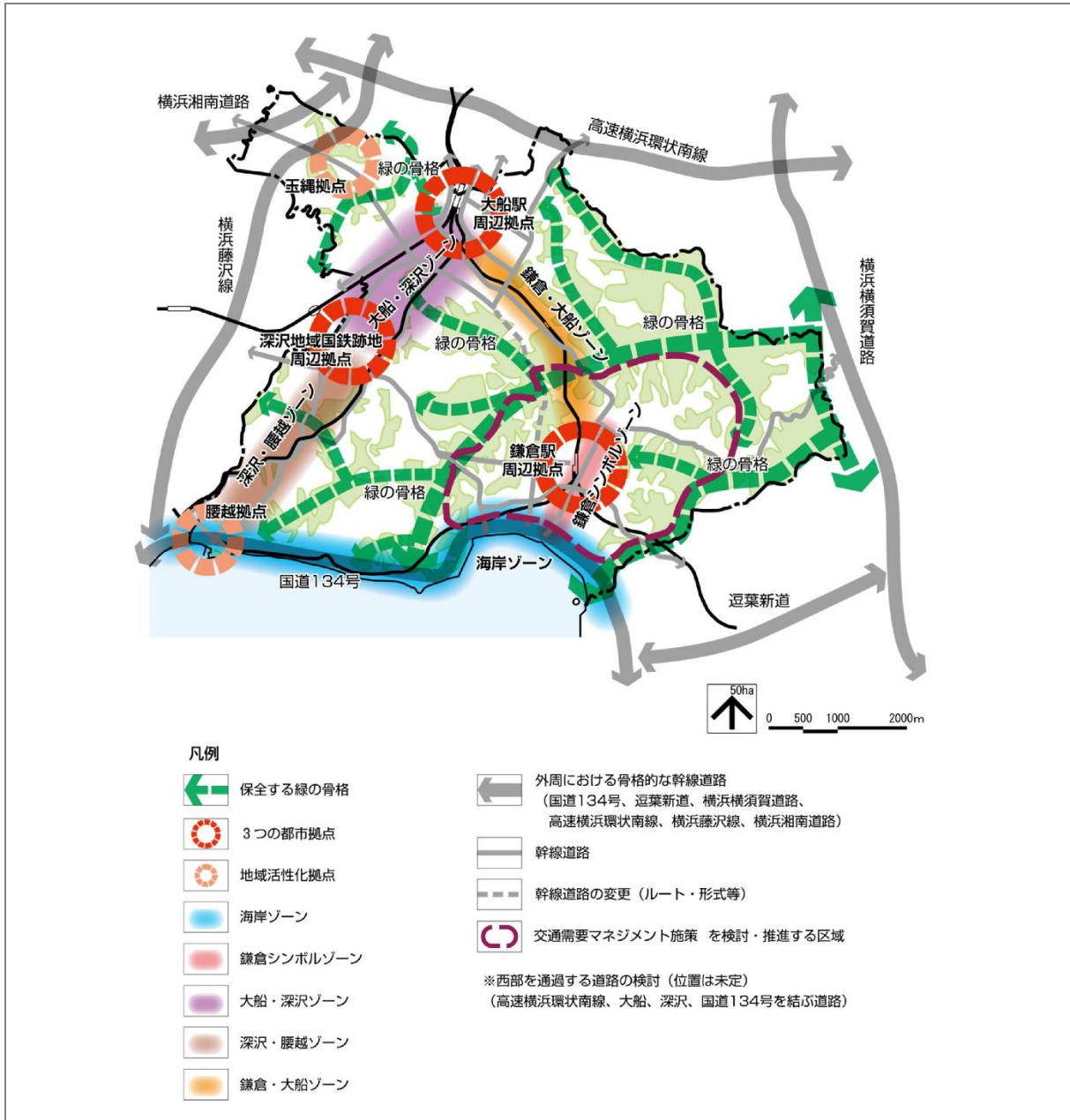


図 1-1 鎌倉市の将来都市構造

(出典：鎌倉市都市マスタープラン 平成 27 年(2015 年) 9 月より抜粋)

## 1.2.2 本市の歴史

本市は、昭和14年（1939年）11月に鎌倉・腰越両町が区域を併せて市制を施行し、昭和23年（1948年）1月に深沢村が、同年6月には昭和8年（1933年）に玉縄村を編入した大船町が合併され、現在の行政区域となりました。このような歴史的な成り立ちから、鎌倉市では地区を5地域（鎌倉、腰越、深沢、大船、玉縄）に区分しています。

## 1.2.3 本市の人口の推移

人口は、本市の税収やインフラの需要に影響を与える大きな要素の一つです。本市では、昭和62年（1987年）の人口のピークから緩やかに減少し、令和6年（2024年）までに約0.6万人減少しています。

令和6年（2024年）以降については、国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると減少が続き、令和32年（2050年）の人口は令和6年（2024年）に比べ約1.4万人減少すると推計されています。

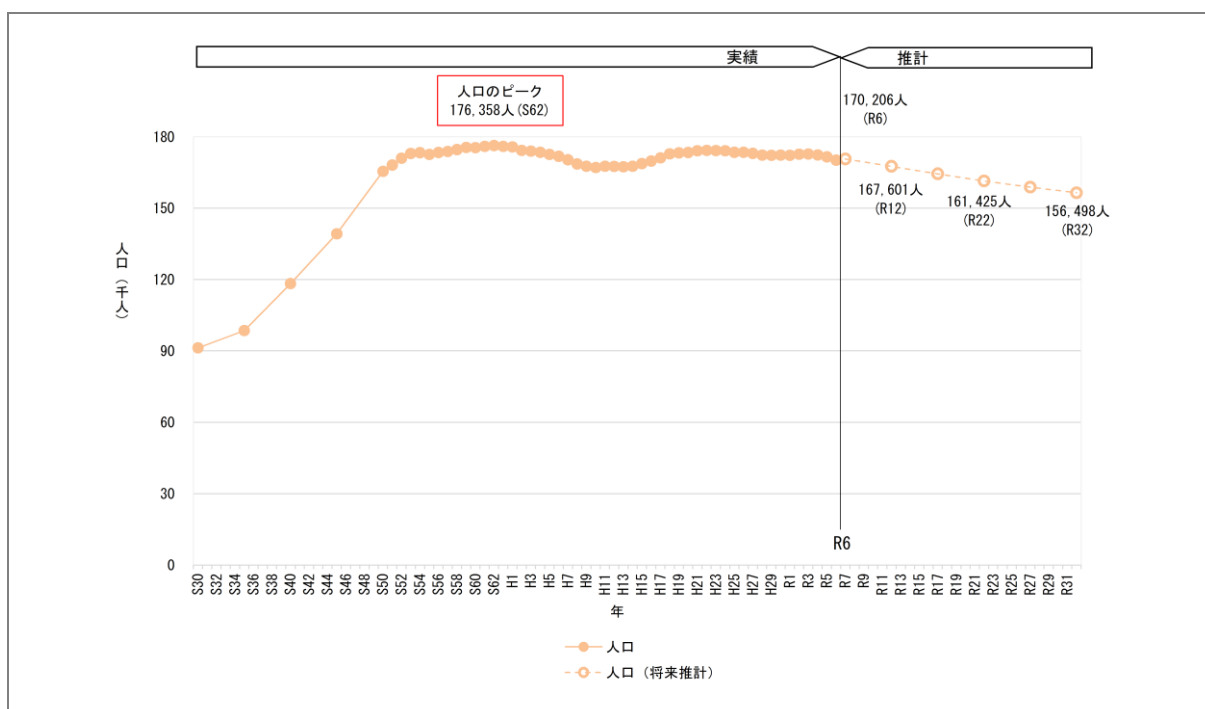


図 1-2 総人口の推移と予測結果

（出典：日本の地域別将来推計人口 令和5年推計 国立社会保障・人口問題研究所  
令和5年（2023年）12月より編集）

人口構成では、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15歳～64歳）は減少傾向であり、老年人口（65歳以上）は、増加傾向にあります。令和32年（2050年）と令和6年（2024年）を比べると、生産年齢人口（15歳～64歳）が約2.0万人減少し、老年人口（65歳以上）は約0.8万人増加すると推計されており、インフラマネジメントはもとより、社会基盤を支える今後の担い手不足が懸念されます。

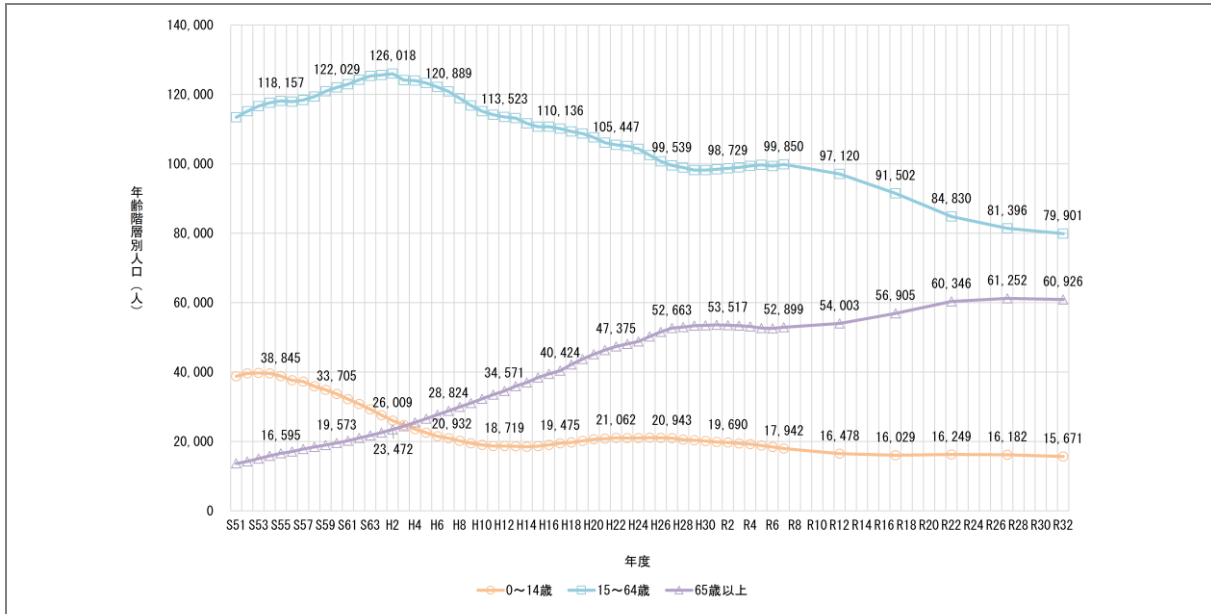


図 1-3 年齢3階層別人口の予測結果

（出典：日本の地域別将来推計人口 令和5年推計 国立社会保障・人口問題研究所 令和5年(2023年)12月より編集）

地域別では、人口の増加傾向があるのは大船地域であり、ピークは令和12年（2030年）となります。そのほかの鎌倉地域、腰越地域、深沢地域、玉縄地域では、今後も引き続き減少傾向が続く見通しです。

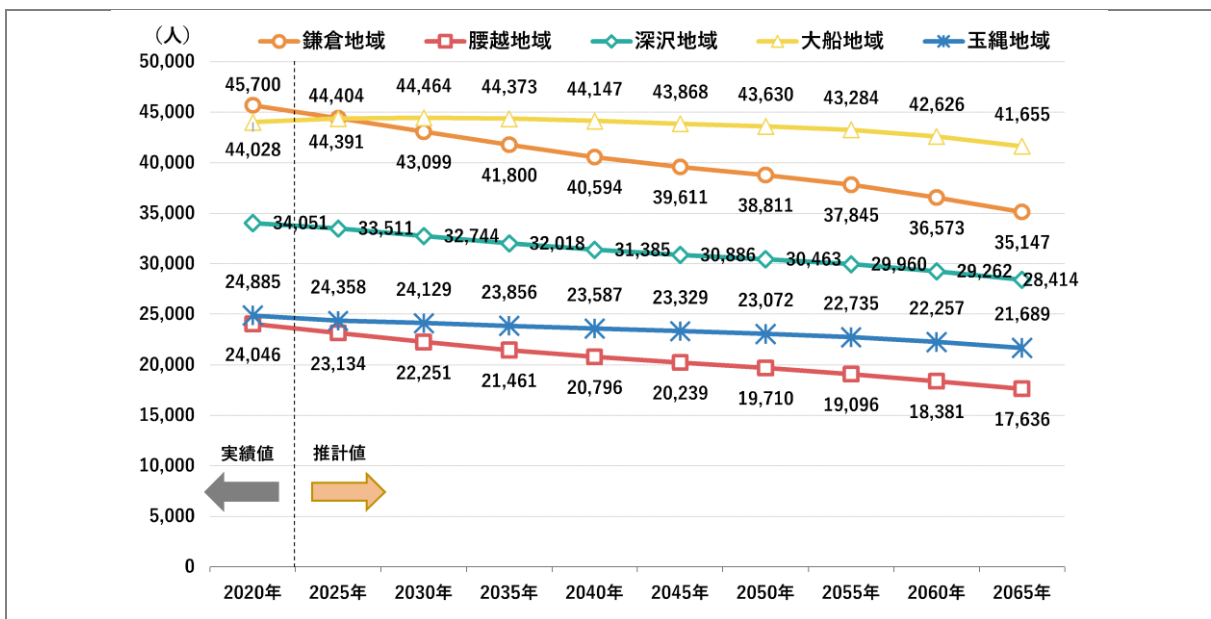


図 1-4 地域別人口の予測結果

（出典：鎌倉市総合計画資料編 鎌倉市 令和7年(2025年)8月より抜粋）

### 1.3 本市の財政状況

本市の財政のうち、主にインフラに関連する一般会計と下水道事業会計について状況を整理します。なお、本市の公共下水道事業の財務会計処理は、これまで地方自治法などにに基づき、官公庁会計で実施してきましたが、平成31年（2019年）4月から地方公営企業法の一部（財務規定）を適用し、事業会計に移行しました。

#### 1.3.1.1 歳入

##### (1) 一般会計

令和5年（2023年）度の本市の一般会計の歳入は約718億円となっており、平成20年（2008年）度からの歳入の傾向を見ると、令和2年（2020年）度を除き、約579億円から約718億円の間に推移しています。

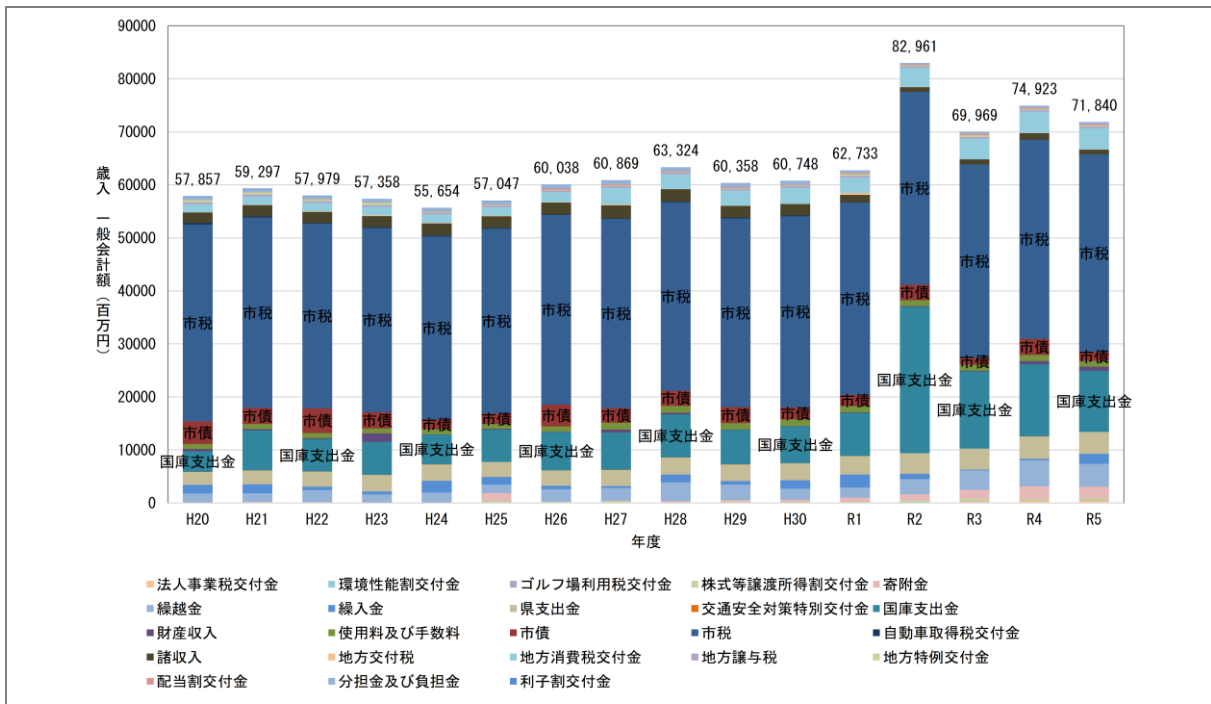


図 1-5 本市の歳入（一般会計）の推移

（出典：各年度の鎌倉市決算書及び附属書類 鎌倉市より編集）

(2) 下水道事業会計

本市の下水道関連の会計について、令和31年（2019年）4月から地方公営企業法の一部（財務規定）を適用し、事業会計に移行しました。

事業会計移行後の推移をみると、概ね横ばいになっており、令和6年（2024年）度では約97億円となっています。

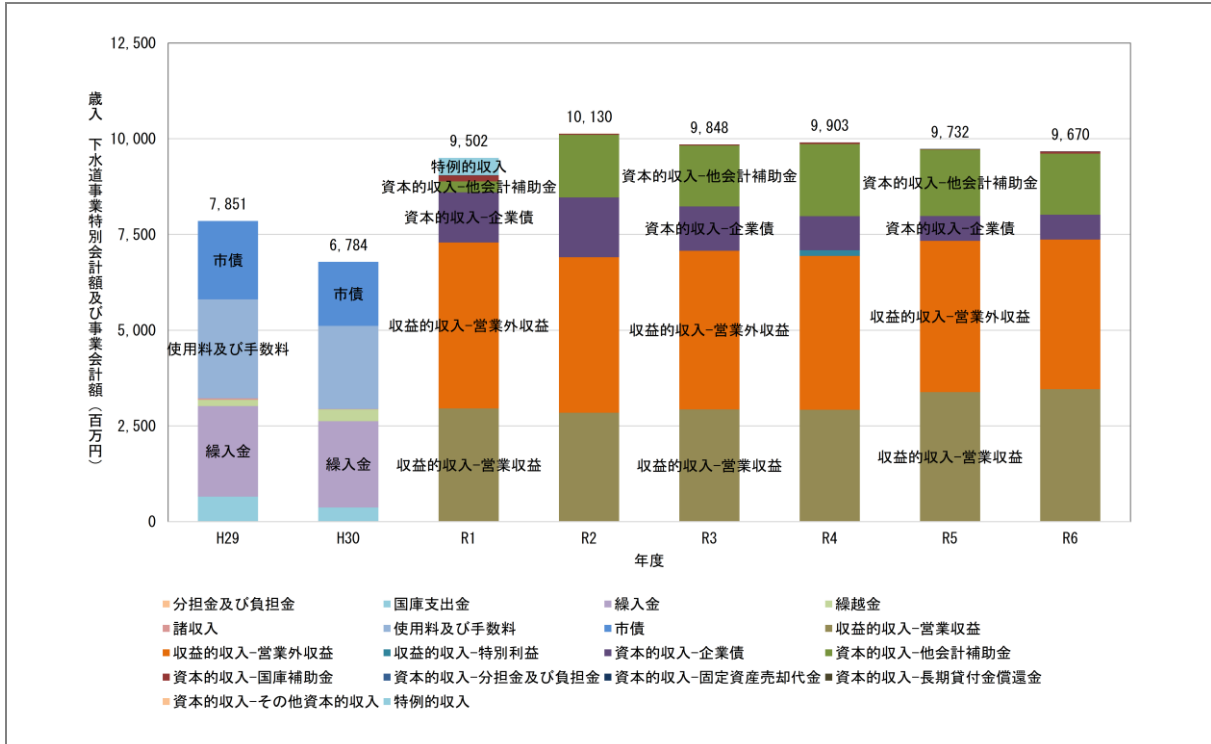


図 1-6 本市の歳入（下水道事業会計）の推移

※令和31年（2019年）4月から事業会計に移行したことに伴い、平成30年（2018年）度までと令和元年（2019年）度からの集計が異なります。

（出典：各年度の鎌倉市決算書及び附属書類 鎌倉市・各年度の鎌倉市下水道事業会計決算報告書 鎌倉市より編集）

### 1.3.1.2 歳出

#### (1) 一般会計

本市の一般会計の歳出額は上昇傾向にあり、令和2年（2020年）度以降は600億円を超え、令和5年（2023年）度では約686億円となっています。

インフラにかかる経費は主に土木費に含まれている他、衛生費や総務費などにも一部含まれています。

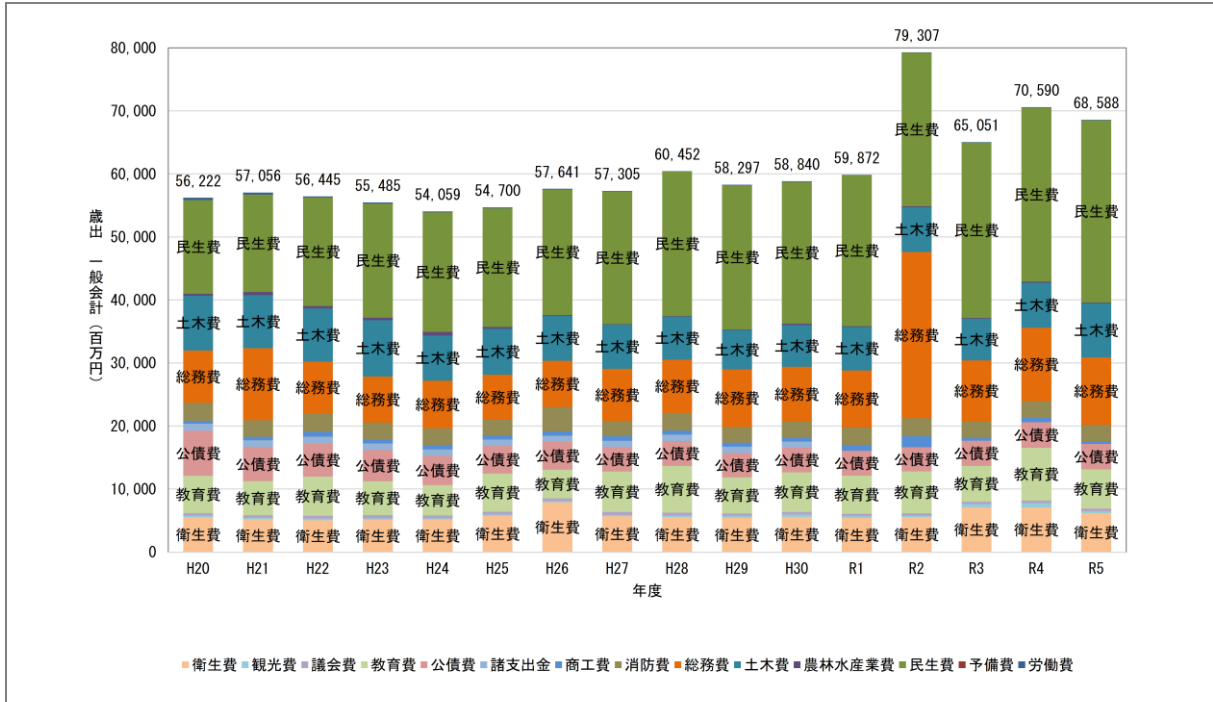


図 1-7 本市の歳出（一般会計）の推移

（出典：各年度の鎌倉市決算書及び附属書類 鎌倉市より編集）

本市の土木費の推移をみると、歳出額は上昇傾向にあり、令和5年（2023年）度では約94億円となっています。

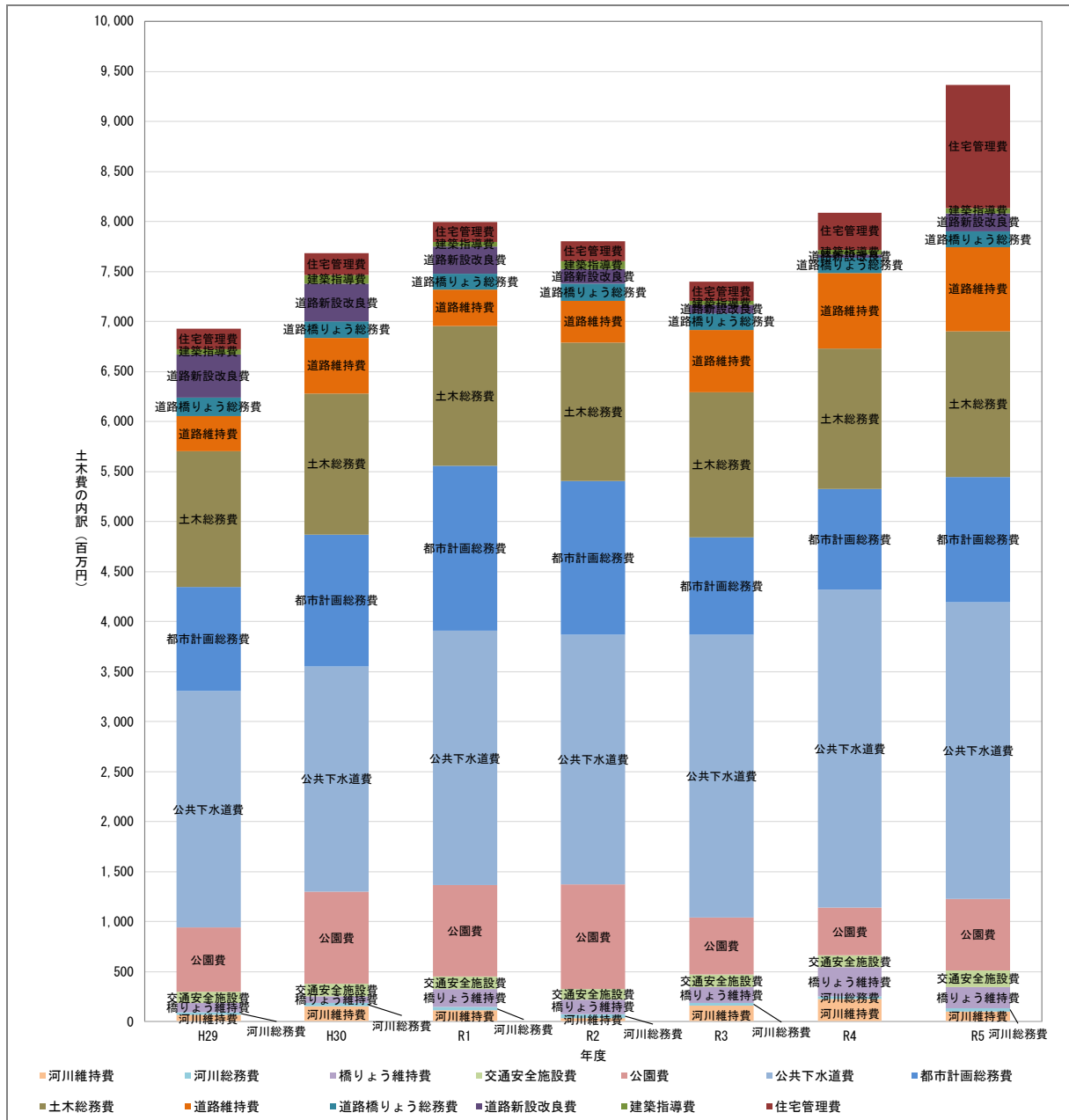


図 1-8 本市の土木費の推移

(出典：各年度の鎌倉市決算書及び附属書類 鎌倉市より編集)

(2) 下水道事業会計

本市の下水道関連の会計について、令和31年（2019年）4月から地方公営企業法の一部（財務規定）を適用し、下水道事業会計に移行しました。

下水道事業会計移行後の推移をみると、減少傾向にあり、令和6年（2024年）度では約99億円となっています。

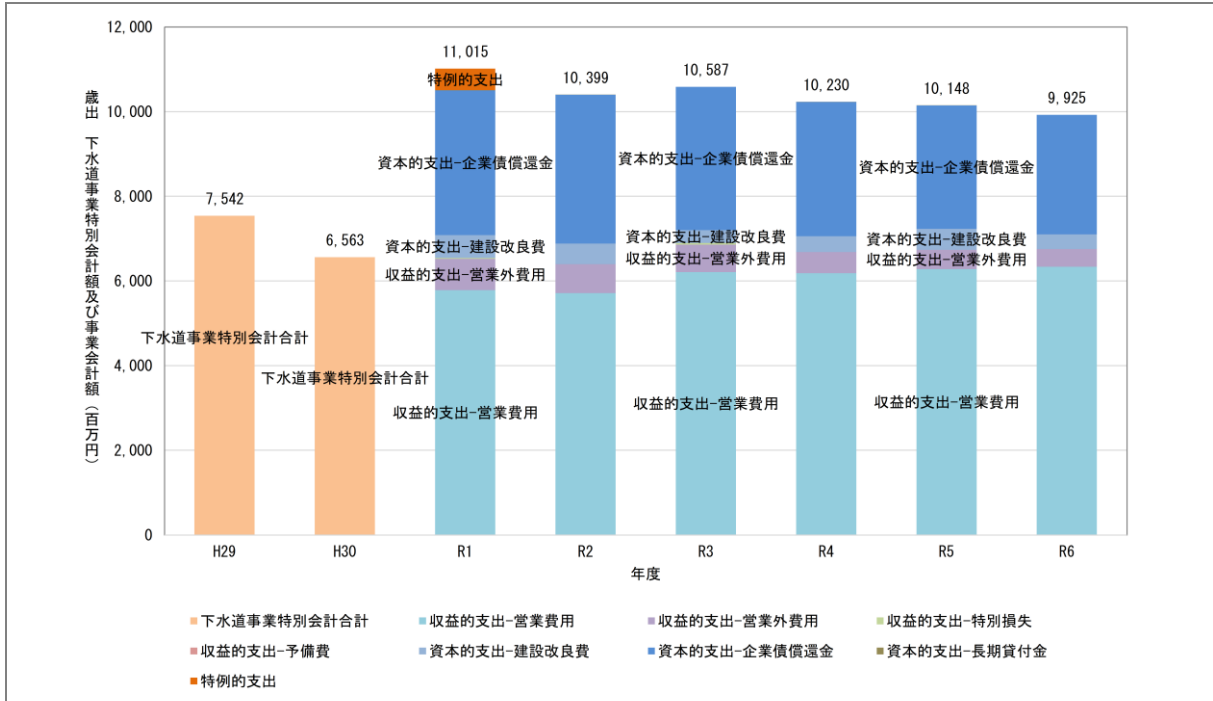


図 1-9 本市の歳出（下水道事業会計）の推移

※令和31年（2019年）4月から下水道事業会計に移行したことに伴い、平成30年（2018年）度までと令和元年（2019年）度からの集計が異なります。

（出典：各年度の鎌倉市決算書及び附属書類 鎌倉市・各年度の鎌倉市下水道事業会計決算報告書 鎌倉市より編集）